

原 著

富山県における人体寄生虫，とくに当教室
寄生虫検査依頼の20年間の推移について

上村 清・松瀬俱子・荒川 良*

富山医科薬科大学医学部感染予防医学教室

*高知大学農学部昆虫学教室

Trend of parasitic diseases in Toyama Prefecture,
focusing consultations to our department during
the last 20 years.

Kiyoshi Kamimura, Ines Tomoco Matsuse, Ryo Arakawa*

Department of Biodefence Medicine, Toyama Medical and Pharmaceutical
University, Toyama 930-0194, Japan

Key Words: Consultation, Parasitic diseases, Toyama Prefecture, Ascariasis,
Diphyllobothriasis

富山県下の人体寄生虫に関する報告はあまり多くないが、30数種が知られていて、一部他所からの移入、輸入例も含まれる。そこで、過去の文献と富山医薬大当教室での過去20年間の検査240件（衛生動物関係を除く）を中心に、その概要をまとめてみた。

戦前はミツカネツマラリアゲンチュウ、コウチュウ、カイチュウ、ベンチュウなどの寄生虫病がはびこっていたが、1960年代になって激減した。集団検便、集団駆虫の寄生虫病対策を柱に、化学肥料の普及で人糞を下肥として畑に撒かなくなり、乾田が多くなって草むらが減少するなどの農村環境の変化、上下水道の普及や衛生教育の向上など居住環境の変化による。現在は、チットリコモナス、トキソプラズマ、カイチュウ、アニサキス、コウセツレットウジョウチュウ、ヨコガワキュウチュウ、ムコウジョウチュウなどが比較的多い。ブタカイチュウ、ユウキョクガッコウチュウ、ウリザネジョウチュウは県内では人体寄生例の報告を欠くが、県下で動物寄生が確認されている（片桐，1959）。

研究室に検査依頼の多かった寄生虫は、アニサキス79例、カイチュウ40例、コウセツレットウジョウチュウ40例であった。最近では国外からの輸入例とともに、寄生虫に対する無警戒から、カイチュウやセキリアメーバなどが増加傾向にある。アニサキス症などは臨床医サイドで処置できるようになって、最近では当教室に持ち込まれなくなった反面、人間ドックなどの内視鏡検査でギョウチュウやコウチュウなどを消化管内に発見して摘出虫体を持ち込む症例が増加している。また、グルメ嗜好で食品から感染する寄生虫やペットブームで人畜共通の寄生虫病も増加している。寄生虫疾患を疑って持ち込まれた検体で、寄生虫卵や虫体ではないものの59件、好酸球増多症などの血清診断での陰性43件であった。

富山県下から記録された人体寄生虫一覧

1. *Entamoeba histolytica* セキリアメーバ

近年も患者が出ているが、いずれも海外渡航

- 歴はなかった。最近増加傾向にある。ダイチヨウアメーバ、コガタアメーバなども存在する。上市町, 1981年43歳男性(上村ら, 1999)。富山市, 1982年48歳男性, 1987年50歳男性, 1997年5歳男児・8歳女児, 内視鏡医の子供(上村ら, 1999)。新湊市, 1985年47歳男性。小杉町, 1997年48歳男性など。
2. *Giardia intestinalis* ランブルベンモウチュウ
富山市, 1987年50歳男性, スリランカからの輸入例。八尾町, 1982年33歳女性, シンガポールからの輸入例と思われる。
 3. *Trichomonas vaginalis* チットリコモナス
婦人科外来にて散見される。氷見市, 1987年33歳女性。富山市, 1988年1歳女児, 1995年34歳女性など。
 4. *Trichomonas tenax* コウクウトリコモナス
調査すれば多数検出されと思われる。富山市, 1985年, 72歳男性。
 5. *Leishmania braziliensis* ブラジル・リーシュマニア
砺波市, 1997年36歳女性, ペルーからの輸入例。富山市, 1986年38歳女性, 南米輸入例。
 6. *Plasmodium falciparum* ネットアイネツマラリアゲンチュウ
富山市37歳男性, スリランカからの輸入例(吉村, 1979)。富山市, 1994年26歳男性, ミャンマーからの輸入例(多剤耐性; 次種との混合感染; 泉ら, 1995; 狩野ら, 1995, 上村ら, 1999)。1998年33歳男性, ケニアからの輸入例。黒部市, 1982年26歳男性, ケニヤからの輸入例。高岡市, 1996年3歳女児, 次種との混合感染。
 7. *Plasmodium vivax* ミッカネツマラリアゲンチュウ
戦後しばらくまでは土着し, 1934-1938年は1349-1535例と全国4位だった(森下, 1963)。滑川市, 1989年31歳男性, インドネシアからの輸入例。富山市, 1994年26歳男性, 前種と混合感染。高岡市, 1996年3歳女児, パキスタンからの輸入例。
 8. *Toxoplasma gondii* トキソプラズマ
県下各地に見られる。1979-89年の抗体保有率4-13%(森田, 1990)。富山市, 1993年56歳女性, 1995年14歳女性など。
 9. *Cryptosporidium parvum* クリプトスポリジウム
富山市, 1992年22歳男性, インド輸入例(上村ら, 1999)など。
 10. *Pneumocystis carinii* ニューモシスチス・カリニ
カリニ肺炎をおこす。富山市, 1998年76歳女性など。
 11. *Ascaris lumbricoides* カイチュウ
戦前は高率に感染していたが, 1960年代に下肥を用いなくなって激減した。ところが, 警戒心がなくなったのと有機農法普及などによって最近増加している。ブタカイチュウが県下のブタに普通に寄生しているのので, ヒトにも感染している可能性がある。富山県, 1922-29年57-73%(森下, 1949)。氷見市1924年92%(志津, 1929)。高岡市石堤, 1929年80%(市岡, 1930)。婦中町鶴坂, 1935年17%(岡田, 1936)。八尾町, 1950年43%, 1951年42%(今園ら, 1953)。立山町, 1949年30%(島田, 1951)。新湊市作道, 1951-52年66%(西田, 1953)。立山町など, 1951-56年23%(佐藤, 1957)。上市町白萩, 1955年31%(越山・南部, 1957)。黒部市, 1973年0.9%, 1975年0.6%, 氷見市, 1974年2%, 1977年2%, 上市町, 1978年0.8%, 朝日町, 1980年0.7%, 県下全般, 1981年0.01%(富山県公衆衛生課, 1982)。近年, 高岡市, 砺波市, 富山市などで回虫迷入例が散見される(上村ら, 1991, 1999; 片田ら, 1991など)。富山市, 1995年26歳女性, 34歳女性。高岡市, 1989年25歳女性, 1992年76歳男性など多数。
 12. *Toxocara canis* イヌカイチュウ
県下の幼犬に高率に寄生している。富山市, 1985年36歳男性, 1990年21歳女性, 1991年1歳女児など。
 13. *Anisakis simplex* アニサキス・シンプレクス
海獣の寄生虫だが, 海産魚類の生食で, 胃アニサキス症などを起こす。県下に普通。婦中町, 1979年3歳男子(吉村ら, 1980)。井波町, 1993年60歳女性。富山市, 1993年33歳男性, 胃壁7匹摘出, 1995年28歳男性, 1996年36歳女性,

1998年31歳男性。婦中町，1994年27歳男性。朝日町，1996年48歳男性。新湊市，1994年51歳女性など多数。

14. *Pseudoterranova decipiens* テラノーバの1種
タラ子生食などで幼虫移行症を起こす。富山市，1985年35歳男性，1994年37歳女性，1995年29歳女性。高岡市，1985年36歳男性。小矢部市，1994年42歳女性など。

15. *Enterobius vermicularis* ギョウチュウ
県下に普通で，幼児，老人に寄生率が高い。氷見市，1924年3%（志津，1929）。高岡市石堤，1929年0.1%（市岡，1930）。婦中町鶴坂，1935年0.8%（岡田，1936）。県下全般，1982年5%（富山県公衆衛生課，1982年）。富山市内保育所幼児，1981年10%（吉村ら，1983）。朝日町，1985年50歳女性富山市，1992年71歳男性。富山市，1993年64歳男性，55歳女性，44歳男性，33歳男性，内視鏡摘出例（宇野ら，1994）など多数。

16. *Ancylostoma duodenale* ズビニコウチュウ（次種も含む）
戦後しばらくまでは流行地として知られ，平地で40%内外も感染していたが，近年は少ない。高岡市など，1910-11年18%（菅，1911）。氷見市，1924年11%（志津，1929）。高岡市石堤，1929年31%（市岡，1930）。婦中町鶴坂，1935年42%（岡田，1936）。立山町，1950年30%（島田，1951）。八尾町，1950年39%，1951年29%（今園ら，1953）。新湊市作道，1951-52年，31%（西田，1953）。立山町など1951-56年40%（佐藤，1957）。上市町白萩，1955年67%（越山・南部，1957）。黒部市，1973年2%，福光町，1976年1%，氷見市，1977年2%，上市町，1978年1.5%，朝日町下山新，1980年0.7%（富山県公衆衛生課，1982）。富山市，1982年内視鏡摘出。舟橋村，1993年79歳女性，内視鏡摘出（上村ら，1999）など。

17. *Necator americanus* アメリカコウチュウ
前種よりも少ないが，魚津市などに戦後多かった（佐藤，1957）。氷見市，1924年1.5%（志津，1929）。立山町，1950年（島田，1951）。八尾町，1950-51年1%（今園ら，1951）。立山町前沢，

1983年80歳女性。富山市，1984年67歳女性。入善町，1989年タイ研修生28歳男性。

18. *Trichostrongylus orientalis* トウヨウモウヨウセンチュウ

下肥を用いて局所的に高率に感染していることがある。高岡市石堤，1929年0.9%（市岡，1930）。婦中町鶴坂，1935年0.1%（岡田，1936）。立山町など，1951-56年2%（佐藤，1957）。上市町白萩，1955年55%（越山・南部，1957）。黒部市，1973・75年1%，氷見市，1977年0.4%，朝日町下山新，1980年19%，同大家庄・山崎，1981年2%（富山県公衆衛生課，1982）。入善町，1984年73歳女性など。

19. *Trichuris trichiura* ベンチュウ
かつては県下で高率に感染していたが，近年は稀。氷見市，1924年89%（志津，1929）。高岡市石堤，1929年57%（市岡，1930）。婦中町鶴坂，1935年31%（岡田，1936）。立山町など，1951-56年，9%（佐藤，1957）。上市町白萩，1955年29%（越山・南部，1957）。氷見市，1974年3%，1977年1%，舟橋村，1979年1%，県下全般，1981年0.1%（富山県公衆衛生課，1982）。朝日町，1982年52歳女性。婦中町，1990年33歳男性，インドネシアからの輸入例。

20. Genus. sp. (Spiruroid larva type X) センビセンチュウ

ホタルイカ内臓の生食で皮膚および内臓幼虫移行症を発症する。黒部市，1992年48歳男性（赤尾ら，1993）。富山市，1992年67歳男性（赤尾ら，1993）。上市町，1993年56歳男性など（守口ら，1994）。富山市，1994年46歳女性など（青山ら，1995）。富山市，1992年46歳男性，1996年54歳男性。上市町，1996年55歳女性，64歳男性など。

21. *Wuchereria bancrofti* バンクロフトシジョウチュウ

富山連隊，1912年0.2%（陸軍省医務局，1913）。氷見市，1913年2%（吉村，1914）。1957年1%（森下ら，1957）ミクロフィラリア陽性だった。八尾町上田池，1982年73歳男性，睾丸腫瘍（Yoshimura *et al.*，1981；上村ら，1999）。婦中町東葛坂（疑似），1985年73歳男性，陰囊

- 水腫 (+), ミクロフィラリア (-)。
22. *Dirofilaria immitis* イヌシジョウチュウ
富山市, 1979年52歳男性 (辻ら, 1979)。富山市, 1979年74歳女性 (Yoshimura *et al.*, 1980; 上村ら, 1999)。富山市, 1980年64歳男性 (Yoshimura *et al.*, 1981)。婦中町, 1983年59歳男性 (吉村ら, 1984)。小矢部市, 1985年55歳女性 (吉村・赤尾, 1985)。富山市, 1980年64歳男性, 1992年61歳男性, 1997年69歳女性。
23. *Schistosoma japonicum* ニホンジウケツキウチュウ
富山市, 1991年65歳男性, 胃組織内に虫卵多数。
24. *Fasciola gigantica* キョダイカンテツ
県下の牛などに普通に寄生している。朝日町, 1982年28歳男性。富山市, 1984年73歳男性。
25. *Clonorchis sinensis* カンキウチュウ
富山市, 1893年41歳男性, 滑川市, 1894年37歳男性 (赤沼, 1894)。高岡市石堤, 1929年5% (市岡, 1930)。富山市, 1980年51歳男性, 秋田からの移入例 (上村ら, 1999)。
26. *Paragonimus westermani* ウェステルマンハイキウチュウ
福光町, 30歳男性 (上原, 1894)。富山県, 0%, 皮内反応3%陽性 (横川ら, 1960)。
27. *Paragonimus miyazakii* ミヤザキハイキウチュウ
黒部市, 1982年37歳男性 (吉村ら, 1983)。富山市, 1984年42歳男性。新湊市, 1992年63歳男性。
28. *Metagonimus yokogawai* ヨコガワキウチュウ
氷見市, 富山市などで人体寄生例が散見される。高岡市石堤, 1929年4% (市岡, 1930)。婦中町鶴坂, 1935年0.2% (岡田, 1936)。富山市, 1990年58歳男性など。
29. *Diphyllobothrium nihonkaiense* コウセツレットウジョウチュウ
マス生食で県下に広く発生する。高岡市石堤, 1929年0.9% (市岡, 1930)。富山県25例, 魚津市・入善町0% (吉村ら, 1975)。黒部市, 1975年0.6%, 上市町, 1978年0.2% (富山県公衆衛生課, 1982)。小矢部市, 1995年47歳女性。小杉町, 1996年10歳男児・13歳男児 (上村ら, 1999)。山田村, 1991年41歳女性。婦中町, 1992年7歳男児。富山市, 1997年30歳男性, 1998年19歳男性。大山町, 1982年44歳男性。宇奈月町, 1991年42歳男性など多数。
30. *Spirometra erinacei* マンソンレットウジョウチュウ
皮下腫瘤を形成する。富山市, 1969年49歳男性, 1977年36歳女性 (光戸ら, 1978)。富山市, 1979年31歳男子 (吉村ら, 1980)。富山市, 1985年42歳女性, 1986年38歳女性。黒部市, 1996年63歳男性など。
31. *Taenia saginata* ムコウジョウチュウ
県下で散見される。小杉町, 1986年50歳男性。富山市, 1996年51歳男性。大山町, 1995年46歳女性など。
32. *Hymenolepis nana* コガタジョウチュウ
婦中町鶴坂, 1935年0.1% (岡田, 1936)。
33. *Hymenolepis diminuta* シュクシジョウチュウ
大島町, 1983年58歳女性。滑川市, 1996年47歳男性。
34. *Echinococcus multilocularis* タホウジョウチュウ
富山市1978年62歳男性, ソ連輸入例と思われる。小杉町1990年71歳男性, 北海道からの移入例 (辻ら, 1991; Watanabe *et al.*, 1993)。富山市1995年65歳男性, 抗体陰性, 北海道からの移入例 (上村ら, 1999)。
35. *Haplotaxis* sp. ナガミミズの1種
富山市, 1997年66歳女性, 鼻腔寄生。

文 献

- 1) 赤沼信古: 富山県に於ける肝臓「ヂストマ」虫病. 東京医誌 8: 259-272, 326-332, 1894.
- 2) 赤尾信明, 岡沢孝雄, 近藤力王至ほか: ホタルイカを生食後発症した旋尾線虫幼虫による creeping disease の2追加例—とくに組織中より幼虫尾端を検出し得た症例について—. 寄生虫誌 42: 167-168, 1993.
- 3) 青山庄, 上山本伸治, 樋上義信ほか: 生ホタルイカ摂取後に腹部症状を呈した9例の臨床的検

- 討. 寄生虫誌 44 : 68-69, および内科75 : 717-720, 1995.
- 4) 荒川良, 上村清: 旋尾線虫幼虫 Type-X の富山湾産ホタルイカにおける寄生率の季節消長. 寄生虫誌 44 : 66, 1995.
 - 5) 江口季雄: 神通川産鱒に於ける広節裂頭条虫幼虫 (Plerocercoid von *Dibothriocephalus latus*.) 寄生の研究. 愛知医誌 29 : 367-372, 1922.
 - 6) 市岡正吉: クル病流行地方として新に認められたる富山県西礪波郡石堤村並隣接町村に於ける学童の腸内寄生虫卵検査成績. 病理学紀要 6 : 701-746, 1930.
 - 7) 市岡正吉: クル病蔓延地方として新に認められたる富山県西礪波郡石堤村地方に於ける淡水魚類を中間宿主とする人体寄生虫並蛙寄生の「リグラ」状幼裂頭条虫の分布状態に就て. 病理学紀要 6 : 747-760, 1930.
 - 8) 今園義盛, 中條惟基, 富士田猛ほか: 富山県八尾町に於ける鉤虫の貧血及び症状に就いて. 日本寄生虫学会記事 (21) : 115-116, 1952.
 - 9) 今園義盛, 中條惟基, 富士田猛ほか: 富山県八尾町に於ける鉤虫の分布種類及び寄生者の症状について. 公衆衛生 14 : 41-44, 1953.
 - 10) 泉三郎, 荒川良, 上村清: ミャンマーにて感染した多剤耐性熱帯熱マラリアと三日熱マラリアの混合重症感染の一例. 寄生虫誌 44 : 71, 1995.
 - 11) 亀谷了: 日本における人体寄生虫の浸淫及び分布の概説. 日本における寄生虫学の研究 5 : 311-353. 目黒寄生虫館, 東京, 1965.
 - 12) 上村清, 松瀬俱子, 荒川良: 富山県における人体寄生虫について. *Clinical Parasitology* 10 : 印刷中.
 - 13) 上村清, 西田義雄, 杉本道哉: 富山県下衛生統計にみる寄生虫感染の推移について. 寄生虫誌 24 (増刊) : 97, 1975.
 - 14) 狩野繁之, 泉三郎, 上村清ほか: 多剤耐性熱帯熱マラリア一症例 - *in vitro* 薬剤感受性試験によるその評価 -. *Clinical Parasit.* 6 : 44-46, 1995.
 - 15) 片田正一, 小杉光世, 中島久幸ほか: 稀有な経過を呈した回虫症の3例. *Clinical Parasit.* 2 : 78-80, 1991.
 - 16) 片桐正三: 北陸, 奥羽方面における顎口虫の研究. 新潟医誌 73 : 957-968, 1959.
 - 17) 加藤桂子, 影井昇, 力武廉太郎ほか: 東京都中央市場に入荷された富山湾産ホタルイカの旋尾線虫幼虫寄生状況について. 寄生虫誌 42 : 511-514, 1993.
 - 18) 小宮義孝, 鈴木了司: 肝吸虫の分布と疫学. 日本における寄生虫病の研究 2 : 347-392. 目黒寄生虫館, 東京, 1962.
 - 19) 越山健二, 南部利汎: 富山県中新川郡白萩地区における泉田部落の健康調査. 日農村医誌 6 : 29-33, 1957.
 - 20) 松崎義周, 武川藤吉郎, 菅沼洋彦ほか: 日本における鉤虫の種類別分布. 横浜医学 10 : 215-227, 1959.
 - 21) 光戸勇, 松本僚一, 赤羽紀子ほか: マンソン孤虫症の2例. 皮膚科の臨床 20 : 470-471, 1978.
 - 22) 森下薫: 回虫及回虫症. 294pp, 永井書店, 大阪, 1949.
 - 23) 森下薫: マラリア原虫の生物学及び疫学に関する研究. 日本における寄生虫学の研究 3 : 45-111. 目黒寄生虫館, 東京, 1963.
 - 24) 森下薫, 中林敏夫, 西村猛: 富山県氷見地方に於ける糸状虫症調査成績. 日本寄生虫学会西日本支部第13回大会抄録 : 67-68, 1957.
 - 25) 守田万寿夫, 中村浩, 浦出雅昭, 廣沢久史: ホタルイカ生食が原因と思われる腸閉塞様症状を出した症例の検討. 日消誌92 : 26-31, 1994.
 - 26) 森田修行: 富山県内の婦人のトキソプラズマ抗体保有状況 (平成元年). 富山衛研年報 (13) : 209-210, 1990.
 - 27) 西田重衛: 富山県作道村に於ける鉤虫寄生率の疫学的考察. 日農村医誌 1 : 54-58., 十全医会誌 53 : 126-127, 1953.
 - 28) 西田重衛: 湿田農村環境における日本脳炎, 回虫およびヅビニ鉤虫の家族集積性について. 日農村医誌 6 : 42-46, 1957.
 - 29) 岡田正雄: 神通川産就いて. 鱒に於ける広節裂頭条虫幼虫の寄生並びに富山県婦負郡鶴坂村に於ける寄生虫分布状態に就て. 北越医誌 51 :

- 77-78, 1936.
- 30) 陸軍省医務局：日本に於けるフィラリアの分布。軍医団誌 (41) : 332-348, 1913.
- 31) 佐々学：日本におけるバンクロフト糸状虫症の分布。日本における寄生虫学の研究 2 : 17-34. 目黒寄生虫館, 東京, 1992.
- 32) 佐藤淳夫：富山県中新川郡における回虫, 鉤虫の分布と糞便処理の問題。寄生虫誌 5 : 195-196, 1956.
- 33) 佐藤淳夫：富山県に於ける鉤虫症の疫学的研究。京府医大誌 62 : 185-216, 1957.
- 34) 島田松之助：十二指腸虫流行地報告 第1報 富山県。京府医大誌 49 : 189-200, 1951.
- 35) 志津廉平：富山県クル病の研究 第1編付録 北陸地方に於ける人体寄生虫の分布の状況に就いて (特にクル病発生蔓延地方の同状況に就て)。病理学紀要 5 : 763-800, 1929.
- 36) 菅種吉：十二指腸虫に関する二, 三の観察。軍医団誌 (27) : 791-797, 1911.
- 37) 富山県公衆衛生課：寄生虫。防疫関係資料 昭和56年 : 49-59, 富山県更生部, 富山, 1982.
- 38) 辻博, 中川禎二, 藤村光夫ほか：銭型陰影を呈した肺犬糸状虫症の1例。富山県中病医誌 3 : 377, 1994.
- 39) 辻志郎, 渡邊直人, 亀井哲也ほか：肝多包虫症の一例。核医学画像診断 6 : 18-21, 1991.
- 40) 宇野雄祐, 岩瀬孝明, 上村清ほか：大腸内視鏡検査にて診断された蟯虫症の3例。Gastroenterological Endoscopy 36 : 1008-1011, 1994.
- 41) 若林信一, 松里寿彦, 上村清：低温処理による旋尾線虫 Type-X の殺滅効果。寄生虫誌 44 : 66, 1995.
- 42) 上原秀三：富山県下に於ける肺ジストーマ病発見。金沢医学会誌 6(43) : 1-5, 1894.
- 43) Watanabe, N., Seto, H., Kamei, T. et al.: Colloid liver SPECT of hepatic alveolar echinococcosis. Ann. Nuclear Med. 7 : 277-279, 1993.
- 44) 柳沢利喜雄：鉤虫及び鉤虫症の疫学。日本における寄生虫学の研究 2 : 115-177, 1962.
- 45) 横川宗雄, 吉村裕之, 大倉俊彦, 辻守康：北陸地方の肺吸虫症分布状況の調査 (2)。寄生虫誌 9 : 401-402, 1960.
- 46) 吉村裕之：北陸地方で見られた熱帯熱マラリアの2症例について。熱帯 12 : 28-29, 1979.
- 47) 吉村裕之, 赤尾信明：肺犬糸状虫症の1例の追加と免疫診断。寄生虫誌 34 : 52-53, 1985.
- 48) Yoshimura, H., Akao, N. and Kamimura, K.: Case reports of infections with *Dirofilaria immitis* in lung and *Wuchereria bancrofti* in epididymis, diagnosed by cross section morphology of worms in pathological specimens. Jap. J. Parasit. 30 : 381-386, 1981.
- 49) 吉村裕之, 赤尾信明, 近藤力王至, 大西義博：アニサキス幼虫の皮下組織内異所寄生の2症例について。寄生虫誌 29 (2, 補) : 52, 1980.
- 50) 吉村裕之, 赤尾信明, 近藤力王至, 大西義博：マンソン孤虫症の4症例。寄生虫誌 29 (2, 補) : 52, 1980.
- 51) 吉村裕之, 赤尾信明, 近藤力王至, 大西義博：宮崎肺吸虫症の1例。寄生虫誌 32 (2, 補) : 61, 1983.
- 52) 吉村裕之, 赤尾信明, 近藤力王至, 大西義博：肝多包虫症の2例。寄生虫誌 32 (2, 補) : 33, 1983.
- 53) 吉村裕之, 北川正信, 上村清ほか：肺犬糸状虫症-日本および世界における報告例の集計-。日本医事新報 (2962) : 27-29, 1981.
- 54) 吉村裕之, 北川正信, 上村清ほか：肺犬糸状虫症の2症例の追加。寄生虫誌 33 (増刊):29, 1984.
- 55) 吉村裕之, 近藤力王至, 赤尾信明ほか：Pneumocystis 肺炎の実験病理学的研究。寄生虫誌 27 (増刊) : 24, 1978.
- 56) 吉村裕之, 近藤力王至, 上村清ほか：北陸地方における広節裂頭条虫症に関する研究 1. 富山県神通川産「サクラマス」(*Oncorhynchus masou*) 内ブレロセルコイド寄生状況の調査と感染実験。北陸公衛誌 3 : 8-12, 1976.
- 57) 吉村裕之, 近藤力王至, 上村清ほか：北陸地方における小児蟯虫症の疫学と駆虫成績。寄生虫誌 31 (2, 補) : 23, 1982.
- 58) 吉村裕之, 近藤力王至, 上村清ほか：ポキール：

- Poquil (pyrvinium pamoate) による幼児蟯虫症の治療成績－ポキール錠とポキール液の比較検討－. 小児科臨床 36:213-216, 1983.
- 59) 吉村裕之, 近藤力王至, 大西義博, 上村清: 広節裂頭条虫の多数寄生をみた症例について. 寄生虫誌 25 (2, 補): 46, 1976.
- 60) 吉村裕之, 近藤力王至, 谷内荘成ほか: スリランカで感染した熱帯熱マラリアの1例について. 北陸公衛誌 4: 58-61, 1977.
- 61) 吉村裕之, 森谷修三: 北陸地方における広節裂頭条虫症の疫学的研究 1. 症例と臨床所見. 寄生虫誌 24 (増刊): 44, 1975.
- 62) 吉村裕之, 森谷修三, 上村清ほか: 北陸地方における広節裂頭条虫症. 日本医事新報 (2693): 22-25, 1975.
- 63) 吉村良雄: フィラリア虫の生物学. 日新医学 3: 661-769, 1914.